

# I 高校教育改革の必要性

## 計画の位置付け

「第3期群馬県教育振興基本計画」(計画期間:平成31年度～令和5年度)の部門計画であり、「第2期群馬県教育大綱」(令和3年3月策定)の方向性を踏まえたもの

## 計画期間

令和4年度から令和13年度までの10年間

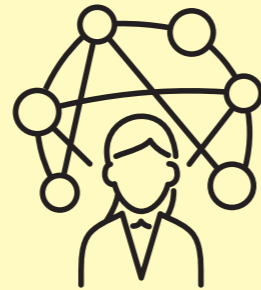
## 01 社会の変化

複雑かつ予測困難な課題を抱えた現代社会において、成年年齢の18歳への引下げもあり、高校教育の果たす役割が大きくなっている。



## 02 生徒の多様化

高校進学率が99%に達し、生徒の学習ニーズ、興味・関心、進路希望などが多様化している。



## 03 生徒数の減少

中学校卒業者の減少が今後も続く中で、学校の活力維持や特色化が求められている。



## 04 教育のデジタル化

全国に先駆けて県立高校に1人1台パソコンを整備。生徒の学習ニーズや理解度に合わせた、個別最適な学びと協働的な学びなどを推進する。



# II 特色ある高校教育の推進 (5つの取組の方向)

## ～ 群馬ならではの学びの推進 ～

「誰一人取り残さない」社会を目指すSDGsの理念の下、全ての生徒に「たくましく生きる力の育成」を図ることを、いつの時代にも不変の目標と位置付け、取組を推進する。

また、新しい価値を創造することのできる「時代を切り拓く力の育成」を取組の方向の第一に掲げ、教育のデジタルトランスフォーメーションによる学習環境の整備を進めるとともに、教育イノベーションを推進し、「群馬ならではの学び」の充実を図る。

